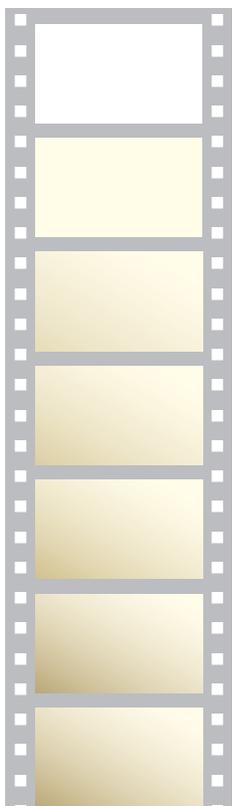


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第三十八回 「佳作は佳作座で」

東京の飯田橋近くには法政大学や東京理科大学などがあり、また御茶の水、水道橋、四谷、早稲田にも近いことから安い料金で名画などを見られる「映画館」がありました。

学生街の映画館とでも言えるその映画館の名は「佳作座」で、一般的に「名画座」(ミニシアターとは違い、簡単に言えば、ロードショーで公開され、人気のあつた作品を二番館で上映後、一本立であるいは二本立で、ひとつのテーマに絞つたり、特に絞らなかつたり、自由な着想で番組を低料金で編成する映画館のこと。無料で配布する個性あふれる独自のミニパンフレットも発行)とされていました。

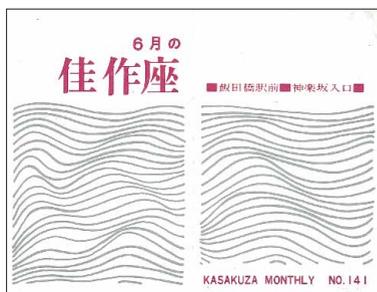
受験で上京した時は、映画を観ている時間などありませんでしたが、就職試験で上京の時、入ったことがあります。洋画二本立で、一本のタイトルを覚えていきます。「燃える洞窟」(67年イギリス製作、クリフ・オーウエン監督、出演ジョン・リチャードソン、オリンカ・ヘローワ、音楽マリオ・ナシンペーネ)。なじみがないのでこれ

を調べてみると、68年9月28日公開、同時上映が「魔獣大陸」（68年イギリス製作）という作品でした。

ぼくはこんな映画のタイトルや、同時上映が何だったかなど、どうでもいいことに興味があり、自分で持っている映画雑誌を総動員して探すのが好きでした。（定年とともに70年代から欠番なく持っていた映画雑誌「スクリーン」は管理する場所もなく、「映画の本は映画館へ」と考え、親しい映画館に贈呈しました。また、70年代から欠番なく持っていた「キネマ旬報」は東京八王子の映画ファンへ知人を通じて差し上げました。）

名画座と言われた「佳作座」で上映された「燃える洞窟」は何だかよくわからない映画で、「これが名画か」と言える作品でした。

前記の二本は怪奇物の映画製作を得意とするイギリスのハマーフィルムプロダクションの製作で20世紀FOXフォックスが配給をしていました。この当時は新作で、名画座で上映したのは、「何らかの事情で予定していた作品がだめになり、その穴を埋める作品のため、上映されたからではないか」と推測します。



1969年6月		完全全洋房 120円均一
3 1 9	地獄の天使 - ベルの鳥 原田謙三 著 藤田洋子 訳 藤田洋子 監訳 1969年5月15日発行 200頁 1,100円	
10 1 16	肉 藤田洋子 著 藤田洋子 訳 藤田洋子 監訳 1969年5月15日発行 200頁 1,100円	
17 1 23	あの胸にもいもど・気狂いピエロ 藤田洋子 著 藤田洋子 訳 藤田洋子 監訳 1969年5月15日発行 200頁 1,100円	
24 1 30	青春の海 - ブリット 藤田洋子 著 藤田洋子 訳 藤田洋子 監訳 1969年5月15日発行 200頁 1,100円	
7 1 7	ロミオとジュリエット 藤田洋子 著 藤田洋子 訳 藤田洋子 監訳 1969年5月15日発行 200頁 1,100円	

▲佳作座ミニパンフレット
表面と中面（2つ折り）

平成24年3月

伸

（文中敬称略）

（続）

問題の「燃える洞窟」は、ウルスラ・アンドレス（初代ボンドガール）主演の「炎の女」（原題She、65年イギリス製作、ロバート・デイ監督）の続篇だったことがわかりました。前篇も観てないのに後篇だけ観ても、よほど原作でも読んでいない限り、理解できないと思います。思いがけなく「炎の女」は、テレビ東京が「午後ロードショー」で数年前放送したのでエアチェックできましたが、部分的にカットしてあるのか、やはりぼくの頭では理解不可能でした。ですからあえてストーリーは書きません。佳作座は88年（昭和63年）閉館しましたが、ぼくが就職試験で上京した時もらったミニパンフレットがありました。ごらん下さい。